





三重病院ニュースレター



N E W S L E T T E R vol.136

 新しいインフルエンザの治療薬	1ページ
 こんなことしてます三重病院「平成22年・健康フェア」「平成22年・三重病院防災訓練」/今月のイチオシ図書	2ページ
 糖尿病ワンポイントアドバイス/「糖尿病教室12月」のお知らせ	3ページ
 アレルギー教室のクッキング/外来からのお知らせ/外来診察のご案内	4ページ

新しいお薬が出ました！

今月も引き続きインフルエンザのお話をしましょう。



新しいインフルエンザの治療薬

インフルエンザウイルスが人に感染し、39℃以上の高熱、頭痛、筋肉痛、関節痛などの症状（インフルエンザ様症状）が出た場合、インフルエンザと診断します。人に感染してインフルエンザを発症させるインフルエンザウイルスは、A(H1N1)亜型、A(H3N2)亜型、B型の3種類です。高病原性トリインフルエンザウイルスと呼ばれているA(H5N1)亜型は、人のインフルエンザウイルスではなくニワトリのインフルエンザウイルスです。

昨シーズン出現した新型インフルエンザウイルス（ブタ由来インフルエンザウイルス）と一昨年まで流行していたAソ連型ウイルスは、ともにA(H1N1)亜型で、起源は1918年に大流行（パンデミック）したスペイン風邪ウイルスです。今シーズンは、ブタ由来インフルエンザウイルス、A香港型ウイルス、B型の流行が予測されています。

3種類とも流行（はや）ると大変？

心配しないでください。今までも3種類のインフルエンザウイルスが流行した年があり、人はこの流行を乗り越えてきました。また力強いことに、今シーズンから新しい2種類のインフルエンザ治療薬が登場し、用途や希望に応じて使えるようになりました。

昨シーズンまで、インフルエンザの治療薬はタミフル®とリレンザ®の2種類でした。タミフル®は1日2回5日間の服用が必要ですし、リレンザ®も1日2回5日間の吸入が必要でした。

新しいインフルエンザ治療薬はラピアクタ®と

イナビル®です。ラピアクタ®は注射で使用する治療薬で、原則1回の投与で効果が認められています。インフルエンザ肺炎などで入院した人の治療に期待されています。イナビル®は日本が開発した吸入で効果が発揮できる治療薬です。1回の吸入で数日間の効果が持続する特徴を持っています。

しかし、問題点も残っています。ラピアクタ®もイナビル®も、タミフル®やリレンザ®と同様にインフルエンザウイルスの増殖に関係しているノイラミニダーゼ（NA）の働きを抑制する薬で、インフルエンザに関連する異常言動や異常行動との関係が否定されていません。このため、子ども（特に10歳代の子ども）に使用するときには、保護者の注意が必要とされています。

もう一つの問題点は、ラピアクタ®はタミフル®が効きにくいインフルエンザウイルスに対して効果が劣る点です。現在までのところ、このウイルスに対してリレンザ®やイナビル®は効果があります。なお、効果の程度に違いはあるものの、今シーズンはやると予測されているブタ由来インフルエンザウイルスA(H1N1)、A(H3N2)（A香港型）、B型に対して、この4種類の治療薬は効果が期待されています。

インフルエンザと診断されたときは、ドクターと相談して、使いやすい、目的に合ったインフルエンザ治療薬を使用しましょう。なお、使わないのもオプションです。（院長 庵原 俊昭）

